

つながりを活かした学校づくり ～予算要望活動をとおして～

幕別町立幕別小学校
菊地 富久穂

1. はじめに

十勝管内では、旧国鉄の路線ごとにブロック割りをして研修を進めています。わたしたちのブロックは管内東部に位置し、下り線ブロックと称し、4町の事務職員が所属しています。

下り線ブロックではここ数年、狭義の学び（授業・教育課程）に焦点をあてた切り口から研修を進め、他職種・児童生徒・地域保護者等とのつながり（コミュニケーションの積み重ね）が大切であるとの認識を共有できました。2015年度は「より具体的なつながり」を追求し、より身近な、誰でも行っている4項目（配分予算の提案、備品購入計画の提案、予算要望の提案、年度末反省の提案）の提案について、提案の仕方、文書の内容、観点、留意事項等を深く追求し、具体的なつながりを模索しました。異動した学校で前任者の提案文書は見ることはありますが、その他ではあまり目の当たりにすることはないでしょう。2015年度の研修の成果として、各学校の事務職員が行っている提案の仕方・提案物に触れることができ、個々に持ち帰り新たな実践につなげることができたのではないかと思います。しかし、全体では交流のみで終了してしまい、検証・各学校での実践まではできませんでした。2015年度はあと1回研修会があれば、個々に持ち帰り4月からの各提案で交流して得たものを加味して新たな実践ができ、その中からより良い提案、より具体的なつながりが見えてきたかもしれません。研修の継続性等を考えた時、新たなテーマに移行するのではなく、昨年度交流した提案の中から新年度のブロック研が始まってからも実践できるものに焦点をあて研修を進めることとしました。

そこで、2016年度の研修テーマを“つながりを活かした学校づくり”～予算要望活動をとおして～と設定しました。

2. 研修の具体的内容

2016年度の交流の中でも明らかになったように、それぞれの学校において今まで要望活動を行ってきていますが、うまくいかなかった点、注意したら良い点、効果的などとりくみ等が出されました。その点を包括的に取り込み各学校の要望活動に活かし、今までよりレベルアップした要望活動が実施できないか、また、要望書作成の過程において他職種・児童生徒・地域保護者とのつながりを深めることにより、より一層充実した要望活動ができるよう一定程度の指標を作成したいと考えました。指標を作る上で、昨年度交流した結果を受けて今年度どのような観点を加味して進めていくかを検討しました。

昨年度交流した結果は以下の表のとおり

どのように予算要望を提案しているか？
<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議または朝の打合せで提案。 ・目的をきちんと書く。 ・どんな良い提案をしても、要望が出てこなくては意味がない。ベストは要望が出てくること。そのことを踏まえ、職員とのつながりや、子どもとの触れあいが大切。 ・声の出るような関係づくりが重要。対等平等が基本。
予算要望の内容の精査はどのように行っているか？
<ul style="list-style-type: none"> ・高額な要望だからといって必要な物を上げないわけにはいかない。 ・精査というより優先順位を把握すべき。意識の共有が大切。 ・小学校はなかなか職員室に先生が戻ってこないで、管理職と話すことも。昨年購入できなかったものについても考慮する。 ・管理職は要望内容を知っていた方が良い。理解をしてもらうことは大事。 ・50万円以上の高額な物は6月中に要望を上げる。(池田町サマーレビュー)
要望をとりまとめた結果の周知方法は？
<ul style="list-style-type: none"> ・結果の提示は必要。 ・通らなかった要望の理由を職員に明確に伝えることは重要である。

教育委員会への実際の要望時に工夫しているところは？

- ・数値化できるもの、視覚化（iPad等）できるものについては活用した方が良い。
- ・より説得力のあるプレゼンが大切。緊急度や子どもの発想も組み込みたい。
- ・町サークルで町内共通の課題を要望している。
- ・教育委員会が現地を見に来ることも大切。

3. 整理した観点として8点

※以下観点になった意見を箇条書きで記載

①職員の要望事項をどうしたら集められるか

- ・どんなに良い提案をしても、要望が上がってこなくては意味がない。
- ・ベストは要望が出てくること。
- ・それを踏まえた職員とのつながりや、子どもとの触れ合いが大切である。
- ・声が出るような関係づくりが重要である。対等、平等は基本である。
- ・中学校は教科担任制のため、教科から出てくる要望事項も中身が専門的すぎて事務職員がついて行けないことがある。
- ・担当者が変わると要望内容が同じ教科でも変わることがある。「こんなものいらない、こっちが欲しい」となり開封しない物があったりする。
- ・小学校は要望が出てこないことが多々ある。提案後の締め切りまでの経過期間が大切。事務職員からアプローチすることが必要で、一緒になって、「何をしたいのか？」を考える。先生方は「できる授業」「わかりやすい授業」がしたい。「言葉のキャッチボール(雑談力)」が必要である。
- ・予算要望に限らず行事の反省も同じことがいえる。担当者からのアプローチで行事の反省の提出率が100%になった。事務職員も同じではないか？
- ・営繕などの項目に興味を示さない人も多々いる現状では、事務職員側からコミュニケーションを取ることは意味がある。『事務職員は「授業」に興味関心がある』と思ってもらうことは必要ではないか？
- ・提案文書の文字数を減らす。これは長文

で書いても文書はあまり読まない、もしくは興味を示さないから。自分の言葉で伝えること（語りかけること）が大事だと思う。

- ・日々、担任は仕事に追われている。堅い文書は響かないのではないか。子どもたちのことを語り合いながら話を聞く、その積み重ねが円滑なコミュニケーションにつながるのではないだろうか。
- ・とりくみ方として言葉だけでなく職員向け事務だよりなどで情報をおりませ、必要な情報を伝えるというやり方もある。
- ・『見る・聞く・話す』は大事。事務職員も教科書を見るべき。授業に活用する新しいものの発見もある。デジタル気体検知装置は消耗品の節約になる。
- ・職員全員で備品点検を実施する時、ゴミの廃棄から、新しい備品の要望が出ることもある。学校に何があって、どういうものが必要なのか、全員で実施していると課題の共有になる。

②学校全体の要望とするための方策

- ・管理職とすりあわせをして理解をしてももらうことは大事である。
- ・結果の提示は必要である。
- ・要望書に載らなかった要望事項は理由を明確に伝える必要がある。
- ・中学校の先生はその教科の専門家だけど、話をしてみると優先順位や、予算のやりくりで意外と融通が利いたりする。
- ・「授業で使用する機材がどこの学校に異動しても常にあるという状況」となるようにしたいが、そうならないため教員が自分でそろえる人もいる。予算に限りがあるので、なかなか難しいが「どこの学校に行っても使いたい備品がある」というのがあるべき本来の姿で、教育の機会均等は当然の考え方だか、ハードルの高い課題である。
- ・職員に提案する時に、昨年度からの改善された事項を提示する。
- ・全体での確認があれば、新規の要望でも、1番になることもある。
- ・話を進めていく過程で調整を図ることになる。

- ・子どもアンケートも方策の一つ。学校だよりも要望内容を掲載している。
 - ・全体に提示して説明をする機会をもつが、意見はあまり出ない。事前のすりあわせで出来上がっている。
 - ・教育委員会と話をする中では、校長からも要望が委員会に伝わる方が良い。管理職が要望内容を把握しているということは重要である。
 - ・学校全体の要望とは、みんなが納得しているということである。
 - ・今年の要望内容の目玉を管理職と話をする。ヒアリングだけでなくいろいろな機会を活用すべき。PTA、評議員会、あるものはどんどん使うべきである。
- ③要望書作成時の注意事項
- ・基準となる数量の把握、新規なら必要性のアピールが必要だし、更新であれば廃棄手続きや使用不能となっている理由等を記載する。
- ④地教委に対し実際の要望活動での注意事項
- ・数値化できるもの、視覚化できるものについては活用した方が良い。
 - ・iPadを使用し、動画での説明を行うなど伝わりやすい方法が必要である。
 - ・より説得力のあるプレゼンが大切である。緊急度や子どもの発想を組み込みたい。
- ⑤ヒアリングの際などにおける説得力のある説明
- ・出てきた物をただ載せるだけではなく、行政側が納得する根拠や説明を出来るように準備する。
 - ・各学校の事情により町内全校の統一要望とはならないもの（個々の学校における課題点）については詳細な状況把握が必要と考える。
 - ・町事務サークルで町内共通の課題を要望する。
- ⑥中、長期的な展望を踏まえた要望
- ・同じ町内で予算の奪い合いになってしまうのは本末転倒になる。町サークル等で話し合いをして、共通要望や高額な要望については、学校の緊急度を考慮し優先順位をつけた提案も必要である。
 - ・池田町のサマーレビューでは、議会の承認が必要なため、町が納得するようなものがなければ困難。町教委との話し合いを事前におこない、町教委が説明できるように情報を集めることが必要。今年は放送設備とか（高額備品）
- ・学校を避難所として使う前提のところもある。町の防災計画の把握が必要な場合もある。
 - ・説得力のあるプレゼンを含め、町の施策を踏まえて、事務職員がコーディネーターとなり学校の要望を伝えることも職務上ありだと思う。
 - ・ICT 関連が大きく話題になっているが、iPadは小学生向き（直感的に使うのに向いている）。中学生はキーボードを使用してPCでの作業をする形が教育活動には向いていると思う。
 - ・教育委員会職員は学校を知らない人も多くいる。自治体職員にとっては、教育委員会は異動部署のひとつであり、学校に詳しい人ばかりではない。要望する上で、学校の在り方を理解している学校現場にいる人が、行政に理解してもらえる言葉で伝えることがとても重要である。大人だけの職場（役場・町教委）と「子どもの生活の場」としての学校との違いを踏まえ、学校であるからこそその課題を理解してもらわなければならない。
 - ・子どもたちに今何が必要であるかというニーズを町教委に伝える。
- ⑦「子どもたちの生活の場としての学校」であることを前提に考える
- ・子どもたちが1日の大半を過ごす学校を「学びの場」「生活の場」として捉えた要望であることが大切である。
 - ・子どもアンケートを活用することで、大人では気がつかないことを拾い上げることができる。（壁の画鋲、トイレの活用、遊具の不具合等子どもが実際使用してみてわかること）
 - ・安全点検実施時に、子どもアンケートに出ていたことを職員が目を確認し、要望にあげることができた。
 - ・子どもアンケートに出た要望事項の結果を学校だよりで還流することができた。

- ・町内で同じ子どもアンケートを実施した結果、PC、机・イスの更新の要望が多かったことを町教委に要望し、結果として3ヶ年計画でPC、机・イス更新が実現した。

⑧基本は「コミュニケーション」ここから始まる

- ・思いを受けとめ、思いを伝える。「どうしてなのか?」「なぜそれなのか?」を聞き、「どうしたいのか?」「何が出来るのか?」を一緒に考え、「こうしてほしい」「こうしたい」と伝えることが大切である。

4. 観点をもとに予算要望の指標を作ろう

(1) 提案時の注意点

- ①提案文書は簡潔にわかりやすくしよう。
- ②職員会議もしくは朝の打合せで行い、前年度までの要望事項と要望が達成できた事項を知らせよう。
- ③集約期間は長すぎず短すぎず設定しよう。

(2) 要望事項をいかに集約するか

- ①提案後からの集約までの期間、職員と予算要望について話し合う姿勢を見せよう。
- ②事務職員も教科の備品の知識を備え、教育課程にも精通するよう努力しよう。
- ③事務職員の提案型の要望集約にしよう。
- ④備品点検・安全点検などの結果からも要望書を作り上げる工夫をしよう。

(3) 学校全体の要望とするため、また中、長期的な展望を踏まえた要望書を作り上げる工夫をしよう

- ①今何が必要で、何が足りないか話し合っていこう（コミュニケーションをとる）。
- ②子どもアンケートの活用を含めた子どもの声を町側に伝えるよう努力しよう。
- ③町のシステムを把握し（池田町のサマーレビュー）町の施策を踏まえた要望書にしよう。

(4) 要望書作成の注意点

別紙資料参照

(5) 地教委に対しての要望活動の注意点

- ①行政側が納得するような要望書であり、根拠や説明ができるよう準備しよう。
- ②数値化・可視化できるものは行い、印象に残る要望活動にしよう。

5. 指標を使い実際に要望書を作成、予算要望してみよう

下記のように下り線4町では予算要望の形式があります。

〈幕別町〉

○予算要望書

備品購入要望 校舎・教員住宅営修繕
児童・生徒用机イス要望 原材料 その他
物品廃棄要望（家電・理科薬品）
サークル等での共通要望のとりくみ：有

〈豊頃町〉

○予算要望書

備品購入要望 校舎・教員住宅営修繕
その他
サークル等での共通要望のとりくみ：無
（各校要望事項の交流のみ行っている。）
町教委における政策予算の把握 無（年度当初の担当者会議にて口頭説明、もしくは校長会議での連絡のみ 年度計画の全体像が見えない）

〈池田町〉

○サマーレビュー（町財政部局が新年度予算の本格策定前に各課で抱える政策課題の洗い出しを行い、事前に協議・調整を行う。）

対象価格 50万円以上

対象事業

教材備品 一般備品 施設修繕
工事要望

○予算要望書

備品購入要望 学校施設、備品修繕・工事要望
家電・粗大ゴミ等不要品調書
教員住宅営修繕 学校配当予算 その他
サークル等での共通要望のとりくみ：有

〈浦幌町〉

○学校予算要望及び学校配当予算要望

備品購入要望 校舎・教員住宅営繕
補助交付金 学校配当予算

サークル等での共通要望のとりくみ：有町教委における政策予算の把握（ヒアリングの時）

6. 予算要望活動を行った結果

2月段階での状況としては、要望事項に対する成果の有無については、はっきりとした答えが出ていません。

5点の指標自体は、目新しいことではなく再確認だったり、心掛けだったりちょっと事務職員側が注意を払うことで済むことなので、大きな成果はみられなくて当たり前だったのかもしれませんが。

各校での予算要望活動の中で、取り組みとして昨年度とは若干の違いも出てきています。

- ・提案文書をよりわかりやすい文書とした。
- ・教科の備品の知識を高める努力をした。
- ・他の話題で話している時も、要望の話をし、何が必要であるか重点的に話をした。
- ・教科間のバランスを考えた要望となるよう努力するべきであった。
- ・事務だよりを使い前年度までの成果を掲載した。
- ・地教委に対しては、こちら側からの理由を明確にした提案型の要望とした。
- ・意識したためコミュニケーションは深まった。
- ・達成感を感じられるように、前年度までの成果を公表した。

以上のような取り組みの深化がうかがえます。また、より充実した取り組みにするため、課題も出されました。

- ・子どもたちの声も反映させたい。
- ・要望をとりまとめる期間を考慮したい。（文化祭期間中であったため）

このような形で、指標を使った予算要望活動はわたしたち事務職員の中では一定程度の成果を確認できたと思います。

7. おわりに

先輩の事務職員諸氏が予算要望自体ない時代から、予算要望のシステムを作り上げ、地教委・自治体に対し学校現場の要望をあげていたことが、今の予算要望システムになっています。長年の積み上げから多くの市町村においては予算要望が実施されています（都市部においては実施されていないところもある）。諸先輩たちの功績の上にわたしたちの活動が存在しているのです。

予算要望で成果が上がるかどうかは、市町村の財政状況であるとか、市町村での施策の関係等でタイミング良く実施してもらえる時があれば、10年以上も要望しているが実施できないことも多々あると思います。わたしたち事務職員は、そのことも踏まえた上で、予算要望活動をサイクル化の一環として推し進めなければいけません。そのためには、観点の最後にある「基本は『コミュニケーション』ここから始まる」ということを胸に刻み、教職員・学校に関わる様々な人たちとのコミュニケーションの積み重ねを大切にし、いかに子どもたちの学習環境を改善し、全職員が参加する学校づくりへと築きあげることができるかが問われています。